

# 群馬循環器疾患インターベンション研究会

## —ライブデモンストレーション—

### 小板橋 紀通\*

さる1999年11月13日、群馬県前橋市の群馬県立循環器病センターにおいて、群馬循環器疾患インターベンション研究会の主催する、第2回ライブ・デモンストレーションが開催された。PTCAを中心とした冠動脈カテーテルインターベンション治療のライブは全国各地で盛んに行われているが、今回のライブは冠動脈インターベンションだけではなく、頻脈性不整脈に対する根治治療であるカテーテルアブレーションおよび心臓血管外科による冠動脈バイパス手術をも、同時進行、多元中継でデモンストレーションするという、前例のない企画であった。主に群馬および関東の医療従事者を対象としたライブであったが、予想を越える約400名の盛大な会となった。ゲストとして東邦大学附属大橋病院の山口徹教授、心臓血管研究所の相澤忠範副院長他、日本の循環器治療の最前線で活躍されている先生方を招くとともに、群馬および栃木の循環器疾患治療の第一線で活躍されている先生方をゲスト・コメンテーターとして招き、活発な討論が行われた。

筆者は、主に血管撮影室あるいは手術室にいて、手技の進行状況をみながらカメラの切り替え等を指示する役割を与えられ、マイク付きのヘッドフォンを被り、コントロールセンターとの仲介役を務めた。3つのミニ・レクチャーも企画されており、3つの現場はシナリオ通りに進むとは限らず、時間配分が大変であった。

ライブの流れとしては冠動脈インターベンションを中心として進行し、その合間にカテーテルアブレーションおよび冠動脈バイパス術を中継する

かたちがとられた。時間が空くときを見計らって、ミニ・レクチャーを入れてゆく。2つの血管撮影室および手術室にそれぞれテレビカメラを設置し、病院1階の外來待合室に設けられた主会場の大スクリーンに治療現場が生で映し出された。血管撮影室および手術室は、会場とマイクを通じて会話ができるようになっており、会場のコメンテーターと手術室のオペレーターとの間で、治療法の選択や治療手技にゆいての活発な討論が行われた。

症例は冠動脈インターベンション7例、カテーテルアブレーション2例、冠動脈バイパス術1例である。冠動脈インターベンションは、7名の術者がそれぞれ1症例ずつ治療を行い、会場のコメンテーターと討論しながら、個々の患者の治療上の問題点や治療戦略を決めてゆく方式であった。

カテーテルアブレーションは多電極で記録される心内電位を画面に映してゆくライブになった。1例目のWPW症候群の症例では1回のシリーズの焼灼でライブ中継中にデルタ波が消失し、アブレーションは成功した。「WPW症候群に対するカテーテルアブレーション」と題するレクチャーのあとであっただけに、非常にdemonstrableであった。

冠動脈インターベンションのライブでは、血管内エコー(IVUS)が通過する症例はすべてIVUSの画像を画面に提示して討論が行われた。病変通過性、血管支持力に優れた第三世代のステントの登場により、多くの症例でステントが植え込まれるが、どのステントをどのサイズで植え込むかについては、各術者により若干異なっていた。また石灰化の強い狭窄に対するロータブレーターも行

\*群馬県立循環器病センター循環器内科

われ、左前下行枝近位部の複雑病変がスムーズに拡張された。

午前の部が終わりに近づいたころ、急性心筋梗塞症例が救急車で搬送されてきた。この症例も同意を得た上で、ライブとして中継し、急性心筋梗塞に対する再灌流療法の実際についても呈示することができた。

冠動脈バイパス術は、心筋梗塞の既往があり、三枝病変を有する61歳の男性に対して行われた。できれば内胸動脈の吻合の様子を放映したかったが、結局時間の関係で胃大網動脈および橈骨動脈のバイパスをライブ中継した。動脈3本のオーソドックスなバイパスであったが、来場者のなかには生の心臓手術を初めてみる方も多く、好評であった。会場の循環器内科の先生方と心臓血管外科の先生方およびオペレーターとの積極的な討論が行われた。

午後の冠動脈インターベンション2例目は

DCA (Directional Coronary Atherectomy) であった。近年 DCA の有用性について再評価する動きがあるが、IVUS を使用して、慎重かつ十分にアテローマを切除することで、PTCA では得られない十分な内腔拡大が得られた。

循環器疾患ライブデモンストレーションは現時点での最新の治療法や技術を広く知って頂き、それによる利益がより多くの患者さんで得られることを目的として行われている。幸い事故もなくライブは終了したが、治療手技は常に一定のリスクを伴うので、内在する問題点の理解もライブの重要な目的である。たくさんの有意義な討論は、多くの問題点の啓蒙にも役立つものであった。なお今回のライブでは、約40名の群馬県内の救命救急士を招待して行われた。近年、循環器疾患のプレ・ホスピタル・ケアの重要性が盛んに言われていることもあり、地域への啓蒙活動としても有意義な試みであったことを付け加えたい。